



地域・駅・新幹線二ユー・ス・ター

はっしん！新青森

青森県立青森西高等学校
Aomori Prefectural Aomori Nishin Senior High School



青森大学
AOMORI UNIVERSITY

2021年7月10日(土)
第24号
【FREE】

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR東日本新青森駅
〔青森学術文化振興財団助成事業〕



青森県立青森西高校「青西おもてなし隊」の木村菜乃花（なのは）さん=3年・写真右上=と顧問の清野耕司教諭=写真右=が6月、新青森駅を訪れ、工藤富士雄駅長=写真左=と意見交換しました。力を合わせて地域の魅力を再発見し、新型コロナウイルス感染症に負けない「おもてなし」展開を確認しました。



地域の魅力再発見を 新青森駅長と隊長・顧問が対談

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく②4

工藤：これまで、お客さまのお出迎えとおもてなしに協力して下さり、ありがとうございます。今年も新型コロナウイルス感染症で多くの催しが中止になっていきますが、どんな構想がありますか？
木村：金魚ねぶたを作って新青森駅に飾ったり、ミニ金魚ねぶたを、青森へ来られない方々に送ったりしたいと計画しています。
工藤：9月まで東北デズナイネーションキャンペーンを開催中です。駅の東口に歓迎のボードを設置しました。7月分は、おもてなし隊の皆さんにぜひ、このボードを活用していただければ。
木村：私は通学で毎日、新青森駅を使っています。みんながアイデアを考えてみます。
工藤：JR 東日本は「駅からハイキング」という企画を各地で展開してきました。世界遺産登録が確実視され

ている「北海道・北東北の縄文遺跡群」の三内丸山遺跡や、世界的な版画家・棟方志功のお墓が、新青森駅から徒歩圏内にあります。手作りのマップなどを作ってみてはいかがでしょうか？
木村：この近くに住んでいる西高校生も多いので、地元のことを説明できると思います。
清野：ちやうど、生徒たちが地域の歴史に関する学習会を開いています。ぜひ、実現したいですね。
工藤：私たちが製作したポスターなどを、東京や神奈川、宮城の駅に飾ってもらう連携も進んでいます。こちらもうかがいましょう。皆さんの若い力に期待します。
木村：駅長さんとお話ししてみても、いろいろなことができると思います。コロナ禍に負けず挑戦したい。
清野：私は歴史や文化、民俗に関する話題を扱ってきたので、生徒たちとともに取り組みを進めます。



紀行家・菅江真澄が見た三内丸山遺跡 「縄形、布形の古き瓦」

江戸時代の記録に残る三内丸山遺跡について、青森県立青森西高等学校「青西おもてなし隊」顧問の清野耕司教諭による解説の第3回をお届けします。

世界遺産登録が目前に迫った国特別史跡「三内丸山遺跡」。遺跡の本格的な発掘が始まったのは1992年、野球場建設に伴う事前調査でしたが、この地に遺跡が存在することは江戸時代から知られていました。

江戸時代の紀行家・菅江真澄（すがえ・ますみ）は三内村の桜見物の際に、古い堰（せき）の崩れた所から「縄形、布形の古き瓦」を掘り出したのを見たと言っています。

真澄はさらに、甕（かめ）の壊れたようなものや、人の頭、仮面の形をした出土品もあり、地元の人には「陶

作（すえつくり）」（陶工？）がここに住んでいたのだらうと言っていると書いています。これらの出土品のスケッチも忘れていまして。特に人の形をしたものは、垂仁天皇のところに殉死（忠節を示すため主君の死後に後を追うこと）の習わしを哀れんで、人に替えて埴輪（はにわ）というものを作らせたというのが、その類いであるとうと学術的な見解も加えています。

日本の考古学は明治時代以降、西洋からもたらされた新しい学問です。真澄に縄文時代、縄文式土器、土偶などという認識は当然ありませんでした。現代人からすれば、「それは縄文式土器だらう」といとも簡単に言えますが、学問や研究は、真澄のような絶大なる興味関心に基づく飽くなき探究心によって、長い年月



をかけて発展していくものなのだとということを実感させられます。

我が郷土の遺産が世界へ発信される日も間近に迫っています。

※写真は菅江真澄のスケッチ。秋田県立博物館蔵写本



8月に乗合タクシー実証実験

JR 東日本盛岡支社は8月、奥津軽いまべつ駅と津軽半島の北端・龍飛崎を結ぶ「乗合タクシー」運行の実証実験を行います。新幹線の東京発新函館北斗行き下り始発列車「はやぶさ1号」の予約状況を調べて、同駅で下車して龍飛崎方面へ向かう乗客の人数を予測。最適な車種・台数のタクシーを駅に配置し、新幹線から1回の乗り換えで、午前11時ごろ龍飛崎へ到達できるようにする仕組みです。午後には復路も設定されます。

「はっしん！新青森」第23号でお知らせした通り、JR 東日本は7～9月の週末などに、津軽線の蟹田～三

厩間に臨時便を運行しています。午前10時7分に「はやぶさ1号」（新函館北斗行き）を奥津軽いまべつ駅で下車して、隣接する津軽二股駅を午前10時17分に発車する臨時便に乗車すると、三厩駅前から龍飛崎に向かう外ヶ浜町の町営バスに接続。午前11時30分過ぎ、龍飛崎へ到着できます。

ただし、8月1日と7～15日は臨時便が運行されないため、代わりの交通手段として、乗合タクシーを設定します。午前10時20分に奥津軽いまべつ駅前を出発、午前11時ごろ龍飛崎へ着きます。料金は1人1

奥津軽いまべつ駅－龍飛崎

回500円です。復路は、往路で整理券を配付された人だけが利用可能で、午後2時30分に龍飛崎を出発、午後3時ごろ奥津軽いまべつ駅へ到着して、上り新幹線「はやぶさ34号」（東京行き、午後3時35分発）と、津軽線より普通列車（蟹田行き）、午後3時54分発＝津軽二股駅＝に接続します。

JR 東日本盛岡支社とともに、関連会社のJR 東日本スタートアップ、徳島市のベンチャー企業・電腦交通、中泊町のタクシー会社・奥津軽観光が連携し、実証実験を行います。

三内丸山遺跡



特別展「あomorいの縄文世界」

7月17日
開幕

青森市の三内丸山遺跡センターで7月17日（土）から11月28日（日）まで、特別展「あomorいの縄文世界」が開かれます。世界遺産登録が勧告された「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成する三内丸山遺跡や是川中居遺跡（八戸市）をはじめ、県内各地の縄文遺跡から出土した土器や土製品、木製品、石器などを通じて、縄文人の暮らしと生活文化、美意識に迫ります。

展示は「縄文一万年史」、「自然資源の利用」、「絆を強める交易」など6コーナーで構成されます。縄文時代草創期の「細隆起縄文尖底深鉢形土器」＝六ヶ所村・表館（1）遺跡、県重宝＝に始まり、早期から前期、中期、後期、そして晩期に至る歩みを、各時期を代表する土器などで紹介します。

新潟県糸魚川市から運ばれたヒスイ製大珠（三内丸山遺跡）、クジラの骨で作られた青竜刀形の骨器（七戸町・ニツ森貝塚）、今も鮮やかな彩文漆塗り浅鉢形土器（つがる市・亀ヶ岡遺跡、県重宝）といった品々からは、縄文の人々のネットワークや自然への向き合い方、今日に劣らない芸術性を感じ取ることができます。

4カ月余りの展示期間は、同センターの特別展では最長で、何度か展示替えを行うとのこと。発掘体験や土偶のレプリカ作りといったイベントも開催されます。特別展観覧料は一般800円、高校生・大学生は400円、中学生以下は無料です（遺跡を含む常設展も観覧可）。「北海道・北東北の縄文遺跡群」は7月下旬、世界遺産に登録される見通しです。

青森県立美術館

「大・タイガー立石展」7月20日から

青森県立美術館で7月20日（火）から9月5日（日）まで、「大・タイガー立石展 ―トラツク、トラパル、トラツプ、トランス」が開かれます。生誕80年を迎える今年、絵画や漫画、絵本など、さまざまな分野で活躍した足跡を、約200点の作品や資料から振り返ります（QRコードが公式Webページにリンク）。

めましたが、1969年にイタリヤ・ミラノへ移住。「コマ割り絵画」を発表する傍ら、デザイナーや建築家とともに、イラストやデザイン、宣伝広告を制作しました。1982年に帰国した後は、漫画集の刊行や絵本の出版、個展開催といった活動を繰り広げ、1990年には「立石大河（たいが）」と改名して絵画や陶彫作品を発表する一方、漫画や絵本を「タイガー立石」の名で制作しました。しかし、1998年4月、56歳の若さで亡くなりました。

今回の展示は、3つの名を駆使して20世紀を駆け抜けた彼の多彩な「足跡」（トラツク）を、「観光」（トラ

ペル）、「仕掛け」（トラツプ）、「変容」（トランス）といったキーワードから回顧します。観覧料は一般1,500円（Webチケット1,300円）、高大生1,000円（同800円）、小中学生は無料です。

また、「コレクション展 2021-2：ユーモアと祝祭」も9月5日（日）まで開催中です。



北海道新幹線 奥津軽いまべつ駅

駅長らと青森大生がワークショップ

青森大学社会学部の榎引ゼミ（担当・榎引素夫教授）は6月14日、今別町の北海道新幹線・奥津軽いまべつ駅（JR北海道）で、「コロナ禍に負けない新幹線駅とまちづくり」をテーマに、同駅にとって初めてのワークショップを開催しました。石沢透駅長ら4人の職員とゼミ生1人、オンラインで総合経営学部の学生が参加したほか、弘前大学生もメッセージを寄せ、2031年春の北海道新幹線・札幌延伸も視野に入れて、駅を拠点とした地域づくりや関係者の連携方法を探りました。

いる「JR津軽線プロジェクト」をきっかけに実現しました。ソーシャル・デイスタンシングに配慮してアクリル板を設置し、プロジェクトやホワイトボード、ビデオ会議システム・Zoomを使用してワークショップを実施しました。石沢駅長らは、全国107箇所の新幹線駅で、最も利用者が少ないことから、奥津軽いまべつ駅が「秘境駅」と呼ばれていること、それでも熱心なファンが北海道、九州など全国から来訪してYouTubeに多くの映像がアップされていること、地元や近隣の町村に呼び掛けて「保育園児の一日駅長体験」を積極的に実施してき



たことなど、興味深い話題を次々に提供しました。進行役を務めた社会学部3年の相坂匠飛（たくと）君は、「大学生と子どもたちとで、地域の未来を考える企画を繰り広げ、人が集まってきて楽しめる駅にできないか」と提起しました。

見学時間 9:00～17:00（入場は開館の30分前まで）
休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
※2021年7月は休館日なし
観覧料 一般410円（330円）／高校・大学生等200円（160円）／中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット品示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannamaruyama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）
休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）
※企画展開催時、展示替等により変更する場合があります。
観覧料 一般510円（410円）／高校・大学生300円（240円）／小学生・中学生100円（80円）
※（ ）内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット品示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <http://www.aomori-museum.jp>



新青森駅⇒三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約20分・300円、タクシー（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分
⇒青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約10分・300円、タクシー（南口）約12分・1,200円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウント



<ネット情報>

Facebook ページとInstagram アカウントを開発し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF版を青森西高校ホームページ（<http://www.aomorinishi-h.san.ed.jp/>）に掲載しています。いずれも、右側にQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・榎引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ

合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。
〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部 榎引素夫 電話 017-738-2001 内線 731

縄文と芸術 FB ページ Instagram

